

県内二ヵ所で小水力発電施設が稼働開始!

5月20日、県内2地区において小水力発電開始式が挙行され、小水力発電所からの通電が開始された。

午前は、秋田県仙北平野土地改良区が管理する「六郷東根小水力発電所」で発電開始式が行われ、関係者の外、松田美郷町長や本会高貝会長など来賓の方々も多数集まり、同土地改良区伊藤稔理事長などが発電のスイッチを押して発電が開始された。また、午後は、にかほ市土地改良区が管理する「畑野小水力発電所」でも開始式が行われ、関係者の外、渋谷秋田県議会議長や本会藤原専務理事などの来賓の方々も多数集まり、同土地改良区伊藤盛雄理事長などが発電のスイッチを押して発電が開始された。

なお、それぞれの発電所での年間発電量は、一般家庭での年間電力使用量に換算すると、六郷東根小水力発電所は16軒分、畑野小水力発電所は100軒分に及ぶ。両発電所で発電された電力は全て売電にあてられ、その収益は土地改良施設の維持管理費用にあてられる見込みである。なお、各発電所の主な諸元は次の通り。

地区	六郷東根	畑野
総落差(m)	2.81	20
使用水量(m ³ /s)	0.700	0.404
発電出力(kW)	11.0	42.7
年間発電量(万kWh)	5.7	36



▲六郷東根小水力発電所(美郷町)



▲畑野小水力発電所(にかほ市)

小水力等発電導入技術力向上地方研修会(第1回)

7月15日、平成28年度小水力等発電導入技術力向上地方研修会が秋田市「メトロポリタン秋田」で行われ、約50人が参加した。始めに、秋田県農業水利施設活用小水力等発電推進協議会の藤原会長が、「小水力はクリーンなエネルギーで売電もできる。制度の見直しで気運が高まっているので、着実に成果を上げていきたい」と挨拶された。

次に茨城大学の小林教授が「農業用水を活用した小水力発電の可能性とその地域利用」と題して基調講演をされ、「クリーンな電力は付加価値があるため、諸外国では関心が高まっている。日本でも小水力発電などが、もっと身近な電力になるように普及を進めていきたい。特に農山村の地域では50kWの自家発電で電力自給地域になれる。農業県でもある秋田にはマンパワーもあるので、小水力で地域に富を生み出し、エネルギー自立を目指して欲しい」と述べた。

事例発表では、発電が開始された2発電所の開設までの経緯などを秋田県仙北平野土地改良区藤岡次長、にかほ市土地改良区竹内管理責任者などが話し、「今後のメンテナンス等については課題もあるが、小さい所からでも小水力発電の可能性を示していきたい」と抱負を語った。



水土里キッズのわくわく探訪 in にかほ

①



スタート!

＼元滝伏流水にきました!／

②



＼県の方々から説明をうけたよ!／

③



＼実際に触ってみよう!!／

④



＼次は横岡でソバ打ちだ!／

⑤



＼上手にできました!／

⑥



＼みんなで食べるとおいしいね!／

⑦



＼記念にハイポーズ!!／

⑧



＼上郷温水路に入ったよ!／

⑨



＼元滝より水があっただかいね!／

⑩



＼畑野小水力発電所!／

⑪



＼模型でみてみよう!／

⑫



ゴール!

＼竹嶋瀧まできたよ!／

6月25日、にかほ市で「水土里キッズのわくわく探訪」が開催され、秋田市とにかほ市併せて60名が参加しました。この「わくわく探訪」は、小学生に農業水利施設やそこを流れる水、そしてその水で出来る農産物への関心を高めてもらうきっかけづくりとして開催しており、今年で20回目を迎えます。にかほ市土地改良区の伊藤理事長にご挨拶頂き、いざ探訪へと出発!!

「元滝伏流水」の説明は県由利地域振興局の武内副主幹がしてくれました。元滝の水は、そびえ立つ鳥海山に降った雪や雨などがゆっくり地表を辿って流れてきているもので、元滝から注ぎ込まれている水は、およそ80年前に降ったものであるということ、山型のスポンジと水を使って分かりやすく説明して下さいました。1日に流れる水は学校のプール100杯分であることを聞いて、児童達もビックリ!写真をを使ったクイズ形式の説明で、みんな楽しみながら聞くことが出来ました。

次に、そばが有名な「横岡地区」に行きました。自治会長の齋藤進さんにご挨拶を頂き、齋藤喜久男名人に蕎麦打ちの講習を受けます。みんな真剣に名人が打つ蕎麦を見ています。ここ横岡の蕎麦は「十割蕎麦」で、つなぎに卵と豆腐を使っています。みんなで試行錯誤を重ねて、この配合に至ったとか。名人の講習が終わると、グループに分かれてレッツ蕎麦打ち!!協力して美味しい蕎麦を目指します。中には、プロ顔負けに上手な蕎麦を打った班もありました。みんなで頑張った作った蕎麦はとっても美味しかったね♪

午後には、「上郷温水路群」の中の小滝温水路に行き、みんなで温水路の中に入ってみました。説明は、にかほ市土地改良区の戸蒔事務局長です。にかほ市の水路に流れる水は、鳥海山麓の冷水のため農業に向かず、昔の人達が智恵を出して、太陽に当たっている時間を長くして、水温を上げるようにしました。確かに、さっき触ってみた元滝の水より温かい!

「畑野小水力発電所」では水土里ネット秋田管理情報部の佐藤部長に説明してもらいました。この発電所は、組合員の皆様の維持管理費軽減のため、今年5月から稼働を始めた最新の施設です。中身の水車が見えない構造になっているため、水土里ネット秋田で作った模型を使って説明。自分の手の力によって動かす力を水に見立てて発電の仕組みを理解したところで、実際に水路に入れて観察しました。

最後は「竹嶋潟」に行きました。ここではにかほ市土地改良区の竹内さんに説明をして頂きました。今から300年前の江戸時代、飛集落を作った佐々木治兵衛が、竹嶋潟に土手を築き4haの田んぼを作ったようです。今は10haの農業用水に使われており、防火用水や景観形成に役立っています。

最後に水土里ネット秋田の金森部長に挨拶を頂き、閉講となりました。今年で20周年記念ということで、かおる堂さんとコラボした「みどりちゃんサブレ」をみんなに配りましたよ!



▲みどりちゃんサブレ

家族3人で参加してくれたお母さんは、「とっても楽しく、為になった。子供もすごく楽しそうにしている、嬉しかった。普段はなかなか出来ない経験をさせてくれてありがとうございます。もっと早くわくわく探訪があることを知りたかった。来年も参加します!」と早くも来年の予約をして下さいました。こういった活動を通して、少しでも農業に興味を持ってもらって、未来の水土里戦士になってくれたらいいなと思うスタッフでした。



▲女子児童たちがみどりちゃんを書いてくれたよ

秋田県農地集団化推進協議会 第56回総会

6月17日、秋田市の「ホテルメトロポリタン秋田」で、秋田県農地集団化推進協議会第56回総会が開催された。総会には32会員が出席した外、県農林水産部佐藤農地整備課長や本会藤原専務などご来賓の方や参与の皆様にもお出でいただいた。

議事に先立ち、平成28年度秋田県農地集団化事業優良地区の表彰が行われ、満場の拍手の中、下記の2地区が受賞された。

議事では、佐々木会長が議長を務められた。平成27年度事業報告並びに収支決算など5件の議案が提出されたが、いずれも満場一致で原案どおり可決・承認された。なお、議事終了後、事務局より、現在支出が収入より多いため基金からの繰り入れで不足分を補っているとの説明がされ、収支の均衡を保つため平成29年度からは負担金を本会については2万円に、また土地改良区については1万円にしたいとの申出があり、会員のご理解をお願いした。

総会の後は、秋田県農業公社による、農地中間管理事業についての講演が行われ、事業の説明の外、会員からの事前質問に対する回答がなされた。

●平成28年度秋田県農地集団化事業優良地区表彰

羽貫谷地地区(美郷町千畑土地改良区)、下郷地区(秋田県雄物川筋土地改良区(平鹿町地区))



秋田県農地集団化推進協議会第56回通常総会



皿ヶ台ため池、二ツ橋ため池(羽後町)の 合同竣工記念式典及び祝賀会

6月12日、秋田県、羽後町、羽後町土地改良区、皿ヶ台・二ツ橋ため池水利組合が、主催する県営ため池等整備(ため池)事業“皿ヶ台・二ツ橋地区”の“合同竣工記念式典及び祝賀会”が行われました。

この式典、祝賀会には、秋田県、羽後町農林課や土地改良区関係者、施工業者、設計業者を含め95名が参加し、盛大に執り行われました。

皿ヶ台ため池、二ツ橋ため池は、地域の用水不足を解消するため、昭和20年代に築造されましたが、60年余年を経過したため、堤体からの漏水、余裕高さ不足、洪水吐工、取水施設工の経年劣化が顕著となり著しく機能低下し、早急な改修が望まれていました。

皿ヶ台ため池は平成22年に採択を受け、翌23年度より6ヶ年、二ツ橋ため池は平成23年に採択を受け、翌24年度より5ヶ年にわたり大規模な改修を行い、新たなため池として完成しました。

柴田理事長は、秋田県、羽後町からのご支援、ご指導、測量、設計、施工業者はもちろんです、
“2つのため池整備について決して忘れてはならないのが、土取場と仮設道路の地権者の方々のご協力”だったとお礼の言葉がありました。

土地改良区や地元水利組合の皆様が、時代の流れを見据え事業推進に向けご尽力されたことについて深く敬意を表する次第です。

